

こどもの高熱、 脳へのダメージについて

千葉県こども病院神経内科 あおやま ひろみ
青山弘美 医師

こども急病電話相談

受診するべきかどうか迷ったら

#8000

毎日夜7:00～翌朝6:00

※相談は無料ですが、通話料はご負担いただきます。

ダイヤル回線・IP電話・光電話・銚子市からは

☎043 (242) 9939

Q1 こども(2歳)はたびたび高熱を出します。高熱は脳への影響があるのですか？

高熱だけでは脳がダメージを受けることはありません。40℃など高い熱になると、心配になるかもしれませんが、多くの場合は自然に治る風邪のようなものです。しかし、熱を出す病気の中には脳にダメージ(後遺症)を残すものがあります。脳にダメージを残すかどうかは病気によって違うのです。

Q2 発熱し、脳へのダメージが心配な病気とは？

発熱がみられ、脳にダメージを残す可能性がある病気には、髄膜炎、急性脳炎・脳症などがあります。これらの病気の場合は高熱を出すことが多いので、高熱により後遺症を残すと思われるのかもしれませんが。髄膜炎、急性脳炎・脳症では、重症な感染症により全身の状態が悪くなったり、過剰な免疫反応で自分の体を攻撃してしまったり、強い炎症により脳がむくんでしまったりすることで、脳にダメージを残します。

Q3 心配な高熱と心配ない高熱の違いは？

熱の高さだけでは、脳にダメージが残る病気とそうでない病気を区別することはできません。大切なのは熱の高さではなく、お子さんの様子です。熱が高くても、元気があって水分がとれていれば心配はありません。熱があまり高くなくても、ぐったりしている、顔色が悪い、嘔吐を繰り返すなどの症状がみられる場合、けいれんや意識障害(呼びかけに反応しない、いつもと様子が違う)が見られる場合は病院を受診しましょう。けいれんが見られた場合でも、熱性けいれんのように脳へのダメージがない病気もありますが、ご家庭で区別することはできません。医師の診察を受けてください。

発熱は、体が細菌やウイルスと戦っている証拠です。熱だけで脳が溶けたり、壊れたりすることはありません。発熱をいわずに怖がる必要はありませんが、心配な様子がある場合は病院を受診しましょう。

